

ニュース①

チュラポーン王女を主賓に迎え、ウェーサクの祝典行われる

8時に代表団と来賓が全員マハチュラロンコーン仏教大学(MCU)ホールに集合した。

9時頃に、パクナム寺院の大僧正であり大僧正執行委員会の議長であるプラマハー・ラッチャマンガラジャン大僧正が会場に到着。聖下の先導の下に、会場に集まった一同は三宝を称えた。



プラマハー・ラッチャマンガラジャン大僧正が、ブッダの教えの核心部分に焦点を当てて、「社会の問題を解決し人の心に平和をもたらすために、ブッダが説かれた五戒を日々の生活の中で実践すべきである。」と話された。

MCUの学長が歓迎の挨拶を述べ、今回の素晴らしい行事は、ブッダが悟りを開かれてからの2600年を祝い、また同時に、シリキット王妃の80歳の誕生日とワチラロンコーン皇太子の60歳の誕生日を祝賀するものであると話した。本日はタイ国最高サンガ評議会の指導の下に第9回国際会議と国連ウェーサクの日の式典が行われるが、これはタイ王国政府の支援のおかげであることもまた忘れてはならない。学長は、「私は神を創り出したものでも、人間を創り出したものでもない、私は悟ったもの、目覚めたものである。」というブッダの言葉、その教えを映し出している非常に重要な言葉を聴衆に思い出させた。全参加者は、「仏教の智慧と融和」というテーマのセミナーか、「環境と人間の愛容」というテーマのセミナーかのどちらかに参加することを求められた。学長はまた、ブッダの教えを教え、訓練し、広めることを目的とした世界仏教センターがナコンパトム県プッタモントンに設立される予定であることをこのめでたい機会に発表した。学長は演説の最後に、海外からの1800人の参加者と3000人のタイ人参加者に、パティバットイブーチャと呼ばれる実践を行ってブッダを心から崇拝するようと呼びかけた。

(訳者注: 以下の「」内はチュラポーン王女のスピーチ)

「本日はブッダの誕生と悟りと入滅を記念する日であり、私はこの特別な行事に参加することを仏教徒として非常にうれしく思っております。ウェーサクの日は、タイ人にとってのみならず世界中の仏教徒にとって重要な日であり、それゆえに、国連は1999年にこの日を国連ウェーサクの日とすることを世界中に告げました。2012年、仏暦2555年のウェーサクの日は、この年がブッダの悟りから26世紀目、すなわち2600年目であることから、広範に特別に祝われています。加えて、この式典はシリキット王妃殿下の80歳の誕生日とワチラロンコーン皇太子殿下の60歳の誕生日という慶事をも記念して行われております。」スピーチの最後に王女は、様々な国々から来た代表団全員に歓迎の意を述べると共に、通常の活動を通してだけでなくさらに実践を通して崇拝することによって、ブッダの教えに従うよう全参加者に呼びかけた。

発信元: 情報技術部

ニュース②



スリランカ大統領、マヒンダ・ラージャパクセ閣下、式典に出席

記者によると、スリランカ大統領、マヒンダ・ラージャパクセ閣下が、芸術文化大臣並びに外務大臣の2名の大臣と共に、ブッダの悟りの2600年を記念してタイ政府の主催により行われる世界的行事、ウーサークに参加される予定である。2012年／仏暦2555年、5月31日にマハチュラロンコーン仏教大学において、チュラポーン王女殿下もお迎えして開会式が行われる。マヒンダ・ラージャパクセ大統領とインラック・シナワット首相は、2012年6月2日の午前8時30分にバンコク市ラジャダムナン通の国連アジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)で声明を発表することになっている。

ニュース③



政府、様々な活動の準備を組織立って行う

2012年5月16日14時、官邸において、マハチュラロンコーン仏教大学(MCU)のプラ・ダマコサジャン学長、行事の組織立った準備を指揮する委員会の委員長であるユンユット・ウチャイディット副首相兼内務相、並びに、ニワッタムロン・ブンソンパイサーン首相府相が、ブッダの悟りの2600年目のウーサークの式典の開催に関する記者会見を行うために集まった。この活動は2012年5月29日から6月4日までの間、タイ国中で行われる。今年、2012年は、国王陛下の85歳の誕生日、王妃殿下の80歳の誕生日、並びに皇太子殿下の60歳の誕生日という素晴らしい年にあたることから、今年のこの式典の開催に合わせて全国で多くの行事が行われ予定となっている。

最高尊師プラ・ダマコサジャン教授博士は次のように話した。「2600年のウーサクの日を開催することは仏陀を思い起こすことであり、それは実践に際して次の二つの真実を理解するようにと私達を励ましてくれるでしょう：一つは善行を行うものは孤独ではない、そして、二つ目は決して努力することを止めてはいけない、というものです。ですから、私達はこの機会に、仏陀の歩みに従うために志を持って大きな善行を行い、しかも辛抱強くそれを行い続けるべきです。」ヨユット氏は、今回仏陀に捧げものをする行事を組織立って行うため、「一県につき仏陀への捧げもの一つ、一地域につき仏陀への捧げもの一つ、一市町村につき仏陀への捧げもの一つ」という指針を与えた、と話した。この指針に従い、彼は諸県に対して、「県行政機構」に参加して地区の寺院、教育機関、および、私企業と一緒に199人の人々が一緒に得度するという企画を一緒に行うように指導した。さらに、内務省は、仏教普及のために4つの地区でユニークな乗り物による行進を行う準備をしており、チェンマイ県を北部地区のセンターに、ナコンシタマラート県を南部地区のセンターに、パトゥムタニー県を中部地区のセンターに、そして、ウボンラーチャターニー県を東北地区のセンターに指定した。

マハチュラロンコーン仏教大学(MCU)の学長、スリランカでウーサクの日を祝うために行われた「世界平和のための世界仏教サンガ集会」に参加

去る2012年5月8日に、マハチュラロンコーン仏教大学学長の最高尊師プラ・ダマコサジャン教授博士と最高サンガ評議会の委員会は政府の代表団と共にスリランカに赴き、コロンボにある国立劇場「蓮池マヒンダ・ラージャパクセ劇場」で行われたウーサクの日を祝う祈禱式典「世界平和のための世界仏教サンガ集会」に参加した。スリランカのサンガと政府が主催した仏陀の悟り2600年を記念するこの式典には、多くの国々から、上座部仏教、大乘仏教、および密教の大僧正、サンガ指導者、仏教指導者、仏教徒など1000人以上の僧と平信徒が集まった。この式典で、最高尊師プラ・ダマコサジャン教授博士はゲストスピーカーとして多くの仏教徒の前でスピーチを行い、聴衆の多くの関心を集めた。

同日、マハチュラロンコーン仏教大学の一行はマヒンダ・ラージャパクセ大統領を訪問し、259年以上にわたって良い関係を保っているタイ国とスリランカの仏教について意見を交換した。その席で、スリランカの大統領は、タイサンガとタイ国政府の代理としてマハチュラロンコーン仏教大学が主催して2012年5月31日から6月2日の間開かれる仏陀の悟り2600年を記念する「世界ウーサクの日」式典に参加する、と正式に表明した。その後、最高尊師プラ・ダマコサジャン教授博士と代表メンバー達はスリランカの指導的立場にある僧達とともにコロンボに駐在するタイ国大使閣下を訪問し、ポンデット・ウォラチャット大使は歓迎会を催した。大使閣下は、タイ国のシャム王家260年という記念の年となる来年行われる大きな行事について語り、それがあらゆる分野において、とりわけ仏教の分野において両国間の関係を強化する非常に良い機会となるだろうと述べた。

ニュース④

菩提樹の葉は、完全な悟りを得られたブッダの悟りを象徴する。
菩提樹の木の生い茂る葉は、世界中に広まった仏教の興隆と発展を象徴する。

菩提樹の葉は、完全な悟りを得られたブッダの悟りを象徴している。

菩提樹の木の生い茂る葉は、世界中に広まった仏教の興隆と発展を象徴する。

六色(ブッダの六光)の旗は、仏教が国際的であることを象徴している。

この仏教の旗は様々な国で使われている。

その六つの色は、青、黄、赤、白、橙、そして「輝く光」である。

ブッダの六光とは、ブッダの身体から発された六色の光のことを言う。

この六色旗は、寺院などの場所を飾るために世界中の仏教徒によって使われている。



ブッダの生誕祭(ブッダジャヤンティ)は、仏教において非常に重要な日である。ブッダジャヤンティという語は、パーリ語で勝利を意味する「ジャヤ」という語に起源を発する。この語は、悪魔(マーラ)とあらゆる精神的不浄に対するブッダの完全な勝利、完全な悟りを得られたブッダの誕生を可能にした勝利を表わしている。それゆえ、ブッダジャヤンティという語は、ブッダの悟りとブッダの誕生の両方を意味している。現代においては、ブッダジャヤンティは、仏教の勝利、そして仏教信者一人ひとりの勝利とも解釈されている。

もしも伝統的なタイ式の方法で仏教の年月を計ると、ブッダの悟り(ブッダジャヤンティ)から2600年という重要な出来事は、仏暦2554年のウェーサクの日と仏暦2555年のウェーサクの日の間に起こったことになる。先の仏暦2554年のウェーサクの日はブッダの悟りから2599年と考えられ、今年、仏暦2555年のウェーサクの日はブッダの悟りから2600年を指す。この計算は、まず、ブッダがついに入滅された時を仏教時代の始まりと決め、そこに45年を足したものである。この45年はブッダが悟りを得られてから入滅されるまでに教えを説かれた期間である。

ニュース⑤

パタヤ・デイリーニュース

2012年6月12日

仏教指導者達、ウェーサクの日とブッダの生誕祭を祝うために集う

2012年6月1日、バンコク — 85ヶ国から5000人を超える仏教指導者達がアユタヤ県で開催される第9回国



際仏教徒会議に集まり、2012年国際ウェーサクの日とブッダの悟りから2600年の記念年、ブッダの生誕祭を祝う式典で神聖なお経を唱え瞑想した。

マハチュラロンコーン仏教大学(MCU)学長のプラ・ダマコサジャン教授博士は、3日間の会議の2日目に世界各国の仏教団体の卓越したメンバー達が、世界平和の達成のためにブッダの教えを如何に利用すべきか、というテーマで演説を行うと述べた。

学長は、一人のイギリス人仏教指導者がイギリスで刑務所にいる受刑者達に仏教の慈悲のメッセージを紹介するプロジェクトを先頭に立って行っている、という最近の例を挙げ、これは国際社会に永続的な幸福を徐々に築いていく一つの方法であると述べた。

会議最終日の明日は、バンコクの国連本部において、全参加者の前で2012年バンコク宣言が発表される。インラック・シナワット首相とスリランカのマヒンダ・ラージャパクセ大統領がこの行事に出席される予定である。

プラ・ダマコサジャン尊師はまた、ナコンパトム県のプッタモントン公園で1700人以上の僧達がろうそくをかかげて行列するウィエン・ティエンの儀式に参加する、ということについても詳しく語った。今年はプミポン・アドゥンヤデート国王陛下の85歳の誕生日、シリキット王妃殿下の80歳の誕生日、ワチラロンコーン皇太子殿下の60歳の誕生日にあたることから、今年の行事は従来よりさらに華やかに行われる、と彼は付け加えた。

今年の式典では、「世界仏教センター」となる仏教公園を建設するための礎石を据える儀式も行われる。

報告者:NTT

ニュース⑥

デイリー・ミラー

幾つかの国は説教するが実践はしないーマヒンダ・ラージャパクセ (MR)

2012年6月2日土曜日 21:08

マヒンダ・ラージャパクセ大統領は、いくつかの国や団体は、この今日の世界で、超大国とか地域大国とか経済大国などといったレッテルを与えられていることを理由に、他国に対して説教したり、支配者のように威張り散らすのに熱心だ、と語った。

「個人にしても人々の集団にしてもまた社会にしても、それが他より優れているかどうかは、神によって与えられた何か特別な権利によって決まるのもなければ、その生まれによって決まるのもなく、その行動によって決まるのです。ある集団が行動するその行動の仕方自体が、その集団が高い地位に分類されるに値するか低い地位に分類されるに値するかを決定するのです。このような智慧に満ちた言葉は、今日の世界情勢においてこの上なく素晴らしい価値があります。というのも、いくつかの国や団体は、超大国とか地域大国とか経済大国などといったレッテルを与えられていることを理由に、他国に対して説教したり、支配者のように威張り散らすのに熱心だからです。彼らが他より優れているかどうかは、これらの国や団体の行動によって判断され決定されなければなりません。」と、本日(6月2日)バンコクで行われた国連ウエーサクの日の式典で大統領は語った。

大統領はまた、ブッダの教えは26世紀前と変わらず今日も適切なものであると語った。「もしも現代の世界の指導者達がこの言葉を奉じるなら、今日の紛争の多くは、国際的なものも国内のものも、人類の利益のために解決されうるだろう。」

「ブッダの教義によって幼い時から養い育てられている私達にとって、正義、そして法の支配というのは馴染みのない異質な概念ではありません。ですから、これらについて私達に説教するのは余計なお世話というものです。」と大統領は語った。